

発達 PA106

母子の相互作用における内的状態についての言及 — 家庭での3場面の比較 —

○園田 菜摘

無藤 隆

(お茶の水女子大学人間文化研究科) (お茶の水女子大学)

【目的】

幼児期の初期において、人間の行動を動機付けている、欲求、感情、思考などの内的状態についての理解を発達させることは、子どもの後の他者理解に重要な役割を果たしている可能性が示唆されている(Dunn et. al., 1991)。子どもの発達というのは、社会的な文脈の中で様々な制約を受けながら進んでいくものであり、子どもがこのような内的状態について言及するようになるのも、家庭でのやりとりの中で様々な内的状態についての言葉に触れ、それを使い、理解を深めていくからこそ起こるものであると考えられる。そこで、そのような社会的文脈として、本研究では場面差、母親の個人差、子どもの要因による制約を考え、これらの制約が母子のやりとりの中での内的状態についての言及(表1参照)とどのように関連しているのかを検討していくことを目的とする。

表1 内的状態言葉

[欲求言葉]
欲しい、～したい、～して、～をちょうだい
[感情状態言葉]
関心・思いやり、同情、無関心、喜び・好むこと、驚き、苦悩、嫌悪、内気、恐れ、怒り、痛み・不快、疲労、飽き、を表す言葉
[心的状態言葉]
知っている、思う、分かる、期待する、忘れる～じゃないかな、何だろう、覚えている、など

【方法】

2歳児27名(男児13名、女児14名)、3歳児24名(男児12名、女児12名)とその母親のペア、合計51組の家庭を、1人の観察者が訪問し、ごっこ遊び、本読み、食事の3つの場面における母子のやりとりを、それぞれ20分ほどビデオに録画した。そして各場面での、欲求言葉、感情状態言葉、心的状態言葉の、頻度とその言葉の意味がカットされた(本読み場面での本の朗読の部分は省く)。また母親には、家庭での情緒表現度を測定する質問紙と、内的状態についての言及頻度を測るための観察者によるインタビューを行い、個人差を測定した。子どもの要因とし

て、子どもの年齢、性別、出生順位を用いた。

【結果と考察】

場面差 ①ごっこ遊びは、母親が最も内的状態について言及しやすく($F(2, 86)=6.64, p<.01$)、母子ともに感情状態言葉($F(2, 86)=5.81, p<.01$; $F(2, 86)=13.48, p<.01$)への言及、他者の内的状態についての言及($F(2, 86)=54.49, p<.01$; $F(2, 86)=16.43, p<.01$)、が多い場面であることが示された。②本読みは、子どもが最も内的状態について言及しやすく($F(2, 86)=16.39, p<.01$)、母子ともに、心的状態言葉への言及($F(2, 86)=84.3, p<.01$; $F(2, 94)=35.83, p<.01$)が多い場面であることが示された。③食事は、母親の欲求言葉($F(2, 86)=58.58, p<.01$)、コントロール的な内的状態言葉($F(2, 86)=62.51, p<.01$)、が多い場面であることが示された。以上より、母子の内的状態についてのやりとりは、場面による差が大きいことが示された。

母親の個人差 ①質問紙で測定した個人差では、情緒表現度がより高い母親は、注意喚起的な内的状態についての言及が少ないことが示された($r(49)=-0.331, p<.05$)。②インタビューで測定した個人差では、個人差としての内的状態への言及頻度が高い母親は、やりとりの中でも言及頻度が高い($F(1, 43)=7.4, p<.01$)ことが示された。また、個人差としての言及頻度が高い母親の子どもも、全体的な言及頻度が高い($F(1, 43)=4.37, p<.01$)ことが示された。以上より、母親の個人差は、子どもとのやりとりの中でもある程度安定しており、さらに子どもの内的状態言葉への言及とも関連があることが示された。

子どもの要因 ①年齢差では、3歳児の方が2歳児よりも、欲求言葉への言及が多く($F(1, 43)=4.55, p<.05$)、コントロール的な内的状態言葉への言及が多い($F(1, 43)=4.65, p<.05$)ことが示された。②性差では、男の子の母親の方が女の子の母親よりも、コントロール的な意味で内的状態について言及することが多い($F(1, 43)=4.87, p<.05$)ことが示された。③出生順位による違いでは、第2子以降の子どもの母親の方が第1子の子どもの母親よりも、心的状態言葉への言及が多い($r(49)=0.42, p<.01$)ことが示された。以上より、子どもの要因によって、母親の内的状態についての言及は多くの制約を受けることが示された。

内的状態についての母子のやりとりは、このような場面、母親の個人差、子どもの要因による制約を受けていることが、本研究では示された。